

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105354
法人名	松山医療生活協同組合
事業所名	グループホームなないろ
所在地	松山市立花二丁目2番15号
自己評価作成日	平成23年6月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームの理念である「住み慣れた町で、安心して楽しく生きがいを感じる生活を支援して行きま

す。」に基づき、協力病院と連携し適切な医療を受ける事が出来る体制作り、防災にそなえる地域の支援の基盤作りを力を入れていきたい。楽しくについては、利用者のひとり一人の気持ちになり家族と相談しながら、柔軟な対応で行きたい場所に出掛けたり、馴染みの関係を継続して行く努力を行っている。開設して5年半が経過したが、利用者も職員もほぼ同じメンバーで、家族的な温かい対応が出来る様に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

お正月にお餅を食べたり、ひな祭りに甘酒を飲む等、食べ物からも季節を感じられるような支援に工夫をされている。母体病院の栄養士が考えた献立をもとに食事作りをされているが、昼食は利用者の希望に応じてメニューを変更することもある。七夕の短冊に「エビフライが食べたい」と願いを書いた利用者がおられ、調査訪問時の昼食はエビフライが食卓に上っていた。前日が誕生日だった利用者は、ご本人のお好きになりずしでお祝いしてもらったことを笑顔で話してくださった。変更した献立は、時々栄養士の方にチェックしてもらい、栄養面についてアドバイスをもらうようになっている。利用者の状態や食材によって、ミキサーにかけ、その後さらに裏ごしして滑らかにする等、個々が食べやすく配慮して、少しでも食事の量を増やせるように支援されている。調査訪問時、昼食を食べ始める際、職員も利用者もみんなて手を合わせ「いただきます」とあいさつをしてから食べ始めておられ、食事の話題等しながら、ゆっくり食事を楽しんでおられた。食後は、ご自分の手の届くところをテーブル拭きされる方もおられた。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年7月6日

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームなないろ

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

平野小百合

評価完了日

H23年 6月 26日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者を書いて貰った理念をリビングの目立つ所に貼っている。開設当初から理念の変更は無いが、定期的に話し合い自分達が行なって行きたい目標になっているか話し合いを持っている。理念の中にある生きがいを感じる生活を支援して行く為に、意欲支援計画書等を作成し活用している。	
			(外部評価) 開設当初、職員で話し合い作成された「住み慣れた町で安心して楽しく生きがいを感じる生活を支援して行きます」という理念について、毎年、職員で話し合う機会を持ち、職員それぞれが理念に沿って目標を立て、実践につなげておられる。さらに、ミーティング時には、職員個々の目標について「立てた理由」を発表して、実行できたかどうか振り返る機会も作られている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 天気の良い時は散歩に出掛けている。元々、グループホームの近隣に住んでいた利用者が多く、知人に会う事も多い。町内会にも入会している。地域のお祭りではお神輿の休憩場所を提供したり、近くの保育園児からも慰問をうけたたり、地域の敬老会のお誘いを受けたりして交流を持っている。まもるくんの家の申請もしている。	
			(外部評価) 利用者が使用する車いすの整備や掃除にボランティアの方が来てくださっている。法人の夏祭りには、地域の方も参加され、職員がたこ焼きの屋台を出し、利用者は、ご家族と一緒に出店を廻る等、楽しまれている。保育園の園児が、敬老の日に、手作りうちわを持って来てくれたり、秋祭りには、ハッピー姿で訪ねて来てくれて、利用者の笑顔が多くみられたようだ。入居相談に来られた人には、ていねいに相談に乗り、入居することは難しい現状である場合でも、事業所便りを送付する等して関係を保つようにされている。事業所は「まもるくんの家」の登録をされており、小学生からのお礼の手紙が掲示されていた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 利用者に夏祭り気分を味わって頂く為、20名程のボランティアの参加を得て、法人全体で夏祭りを開催し、200名程の地域の方々が参加して交流して下さる。又、研修・ボランティアの受け入れを行なっている。介護に興味を持っている方の為に介護教室を開催するお知らせを掲示しているが開催には至っていない。母体の病院では定期的に医学講座を開催している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 地域の方に参加して頂き、勉強会や消防活動への協力要請を行っている。運営推進会議には利用者の皆様にも参加して頂き、生活していく上での感想等を伺い、その意見を参考に会議を進めて行く事が多い。改善した事があれば、議事録やグループホーム便りに記載し多くの方に興味を持って頂く様に努力している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は1階のデイサービスで開催されており、利用者は、順番で会議に出席されている。管理者の方は、利用者へ「不満をぶつける場だから何でも言って下さい」「ここに集まった人たちは、みなさんの暮らしをよくしてくれる人たちです」と利用者が参加する意義を説明をされ、利用者が発言しやすいように配慮され、職員は普段通り接し、利用者の方がよく話されていることを話題に挙げる等、議題にも工夫されている。会議時には、「なないる便り」を用いて、近況報告を行う等、具体的に伝えて意見を出しやすくされている。家族会の日に運営推進会議を開く等して、ご家族も参加しやすく工夫されている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 毎回、運営推進会議には参加して貰っている。会議ではケアの方向性を相談したり、ヒヤリハットが出た時に相談や、災害時の対応方法を一緒に検討して貰っている。定期的にグループホーム便り・運営推進会議議事録等を郵送したりしている。利用相談でグループホームで対応出来ない時、支援して貰っている。</p> <p>(外部評価) ケアの方向性や、ミーティングの持ち方等、悩みごとがあれば相談しながら取り組んでおられる。市の担当者の方からは、感染症についての情報や防災グッズについて教えていただいたり「懐中電灯はいろいろな場所に置く方が役立つ」等の災害時についてのアドバイスをいただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 拘束をしないケアを行うため、下肢筋力の低下・高次脳障害で、常に見守りが必要な利用者へ、スタッフ間で連携をとり安全を確保するケアに取り組んでいる。権利擁護・身体抑制に対する研修に参加したり、法人内で勉強会を行なっている。ベット柵の利用の仕方は、本人又は、ケアプラン説明時に家族の意思を確認するようにしている。</p> <p>(外部評価) 事業所は、建物の2階にあり、扉等の鍵は閉めず、利用者が出入りできるようにされている。職員は、「帰りたい」と、利用者が居室で荷造りをされている時には、転倒がないように気を付けながら見守られたり、ひとりで外に出かける利用者には、ご本人の気持ちが落ち着くまで、職員と一緒に歩く等されている。時には、ひげ剃りの声かけをする等して気持ちが違うことに向くよう、声をかけたりして支援されている。調査訪問時も、気持ちが不安定な状態の利用者がおられ、職員同士相談されて、気持ちが落ち着いてから食事ができるよう、見守るようにされていた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) マニュアルの作成を行う他、ほとんどの職員が研修会への参加、スタッフミーティングにて検討したり、虐待防止に努めている。利用者家族にも、面会時は時間制限せずに来所して貰い、他の利用者との交流を持って頂き、開放的な空間にするよう心掛けている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) マニュアルを作成している他、研修会に参加している。現在の利用者や家族からは問い合わせ等は無いが、グループホームの玄関にパンフレットを置く等の工夫をしている。管理者のみで対応するのではなく、全職員の見識を深めていきたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は家族の協力を得て丁寧に説明を行なうようにしている。暫定的な、ケアプランも提案し、グループホームの環境に早く慣れて貰える様に、家族からの情報をもらえるようにしている。医療との連携についても、話し合う時間を持っている。介護報酬改定時には勉強会を持ったり、説明文章を配布したり、電話連絡をとる等を行なっている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営に対する利用者の意見を積極的に受け止め、おやつの際に茶話会を持ち、話し合いの場を持って頂いてる。具体的には、食事の時間の持ち方、入浴の時間帯、外出先、行事内容等、利用者の意見を反映出来る様に工夫している。家族会も年に2回のペースで開催し改善点や満足度の確認を行うようにしている。	
			(外部評価) ご家族の来訪時に写真のアルバムを自由に見られるように、事業所の入り口すぐの所に置いておられる。ご家族は利用者との会話のきっかけとしているようだ。さらに、運営推進会議の議事録や「なないろ便り」も設置されていた。家族会は、8月の夕涼み会や年末の忘年会の日に合わせて行っておられ、ご家族同士でおしゃべりする姿も増えてきたようだ。管理者は「ホームは家族に育ててもらおう」との考えのもと、家族会で出された意見等は、後日、職員で検討して、運営につなげられている。以前は玄関に面会ノートを置いており記入していただいていたが、誰がいつ、どれくらい来たか気にされるご家族もおられ、面会用紙を置くようにされた。介護度が重度の利用者のご家族から「どうやってお風呂に入っているの？」と質問があった際には、実際に入浴支援を見ていただいたこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営者との会議を定期に持ち、職員の意見を伝える場を設けている他、ミーティングの時や随時職員の意見や提案を聞く機会を持っている。運営推進会議でも運営者も参加し意見を求めるようにしている。リロケーションダメージを避ける意味でも、職員の勤務交代等には、配慮している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>職員の入れ替わりが少なく、開設当初からの職員が多く、職員同士の信頼関係が築かれている。ご家族が職員のことを褒めて下さることも多く、職員は、やりがいの一つになっているようだ。職員が勉強したい研修が受けられるような仕組みが作られており、又、職員個々の現状に即した研修を受けられるように管理者が受講をすすめておられる。</p>	
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員の負担を考慮しながらも、利用者のニーズに応じて柔軟な勤務体制が取れるような工夫をしている。職員研修にも力を入れ、積極的に参加出来るようにしている。開設当初からの職員も多い。約半数の職員が介護福祉士の資格を持っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>職員は自分で、年度の目標を設定し、達成出来るように努力している。研修会での学びを全員が共有できるように研修内容を報告出来る機会を作るようにしています。外部で行なわれる研修会も積極的に参加している他、法人内でも月1回程度のペースで研修を行い、高い参加率を維持している。</p>	
13		<p>職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員は自分で、年度の目標を設定し、達成出来るように努力している。研修会での学びを全員が共有できるように研修内容を報告出来る機会を作るようにしています。外部で行なわれる研修会も積極的に参加している他、法人内でも月1回程度のペースで研修を行い、高い参加率を維持している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>グループホーム協会での相互の交換研修に参加し、他のグループホームでの経験し学びを得る様にしている。今後他の事業所と連携し定期的に研修を行うように計画している。グループホームだよりを互いに送付しあったりしている。</p>	
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>グループホーム協会での相互の交換研修に参加し、他のグループホームでの経験し学びを得る様にしている。今後他の事業所と連携し定期的に研修を行うように計画している。グループホームだよりを互いに送付しあったりしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>グループホーム協会での相互の交換研修に参加し、他のグループホームでの経験し学びを得る様にしている。今後他の事業所と連携し定期的に研修を行うように計画している。グループホームだよりを互いに送付しあったりしている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族・担当ケアマネと連携して入所までの経過を把握するようにしている。最近、入所した利用者の時は、協力病院に入院されていたので、何度も面会に行き、信頼関係の形成・病院看護師との意見交換・体調に合わせて入所時期を設定、主治医・訪問看護師を交えての入所前の事前相談等を行いリロケーションダメージを最小限にとどめる努力をしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>家族・担当ケアマネと連携して入所までの経過を把握するようにしている。最近、入所した利用者の時は、協力病院に入院されていたので、何度も面会に行き、信頼関係の形成・病院看護師との意見交換・体調に合わせて入所時期を設定、主治医・訪問看護師を交えての入所前の事前相談等を行いリロケーションダメージを最小限にとどめる努力をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用開始となる前に家族の要望を確認し、ケアプランに取り入れるように工夫している。初期には、面会に来て頂く回数を多くして貰ったり、日常生活を送る上で不便と思われる事が少ないように環境整備を行ってから利用者の受け入れを行うようにしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			利用待機人数が多く、必要と思われる時期利用できない事が多い。担当ケアマネにも連絡は入れるが適切な対応が難しい。入所の時期には早いと思われる時は、家族と相談し待機して頂いている場合もある。1階のデイサービスを利用して待機されている方は、時折、声を掛け状況を把握する工夫をしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			ケアプランは利用者・家族・担当職員・計画作成担当で話すように心掛けている。歩行練習等は本人と家族間で目標設定をして貰うよう工夫している。食器の片付け、洗濯物をたたむ等は茶話会の時に話し合い、利用者が参加出来る事を話し合う機会を持ち、参加して頂くようにしている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			面会に来て頂けるペースを相談し、希望をされる家族の方には、負担にならない範囲を確認し、食事介助をして頂いたりしている。又、外出行事の時家族の方にも参加して頂き、車椅子を押して頂く支援をして頂いたり、家族会を年に2回開き、その後、食事会を開き利用者と一緒に過ごして頂く時間を持ったりしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			近所に住んでおられた利用者が多く、自宅に外出したり、承諾がある場合は友人を訪ねたりする事もある。昔馴染みの美容室に通われている方もいる。友人への電話や年賀状を出す為の支援を行ったり、担当していた、ケアマネにグループホーム便りを送ったり、面会に来て貰う等の交流が保たれる努力をしているが高齢化が進み以前のように頻回に外出するのが難しくなっている。	
			(外部評価)	
			利用者から「昔懐かしい店で、みたらし団子を食いたい」「うどんを食いたい」という希望があり、電車に乗って出かけてみられたり、コンサートやパチンコに行ってみる等、個々のこれまでの暮らしを尊重し支援されている。事業所から「なないろ便り」をお送りしたことがきっかけで、疎遠になっていたご家族の方から、手紙が届くようになり、利用者のご家族の関係をつなげられたような事例もある。遠方のご家族には、利用者ご本人の日常の様子やお誕生日の様子、歌を歌っているところ等をビデオで撮影してビデオレターにしてお送りしたこともある。利用者が以前入所していた施設にも事業所便りを送っておられ、時には、その施設の職員の方がご本人に会いに来てくださることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い利用者同士で外出できる場を設定したりし、利用者同士の交流が進むように配慮している。食事の時のテーブルの配置等も配慮し楽しんで食事が出来るような支援を心がけている。気の合う利用者同士で居室で一緒に、DVDを見られたりする時間を大切にする等居心地の良い空間作りを心掛けるようにしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者が入院された場合は、お見舞い等にもお伺いしている。希望がある場合は、仲の良かった利用者もご家族の許可を得てお見舞いに行ったりしている。退所後もご家族より連絡を頂く事も多く、相談に応じたりしている。担当の居宅ケアマネに連絡を取り介護保険認定の手続きの支援を行い、適切なサービスを受けられる支援を行うようにしている。	
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意欲支援計画書を作成し、受け持ち職員が中心となり、一人ひとりの思いを大切に支援する事に力を入れている。自分の意思が表現しにくい方も家族と話し合うようにしている。行きたい場所に外出したり、利用者のご家族のゆとりがある時に自宅に帰ったり等の支援を行っている。 (外部評価) 運営推進会議時、利用者から「職員の利用者への対応について気になったこと」の発言があり、管理者は利用者の気持ちに「多角的な視野を持つ重要性」を感じておられた。利用者がお若い頃のことを話して下さるような時、職員は、ご本人の現在の思いを知るきっかけにもなるようだ。職員は日々の中でも「やってみたいこと」等を利用者に問いかけながら、職員からも具体的に提案してご本人から意向を引き出せるよう支援されている。ご自分から気持ちを伝えられないような利用者には、ご本人の目線等も大切な情報となっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の年表を作成したり、入所前のお話を家族より詳しくお伺いしている。利用者が興味深い話題を把握し、食事やお茶の時に話して頂いたり、得意な事を教えて頂いたりしている。職員の経験も長くなり共有出来る出来事も多くなり、安心して過ごせる空間を提供出来る様にしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) グループホームでの一日の大まかな流れは決まっているが、それに左右される事なく、マイペースで時間が過ごせるように、一人ひとりの体調に合わせて支援している。体調が良い日は散歩に出掛けたり、落ち着かない日は、なるべく一緒に過ごし、見守る時間を多くする等工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 介護計画を立てる時は、本人・家族の意向を取り入れたものになるように話し合った上で決めていく。月1回のペースで検討会を行っている。意向を取り入れ実践した上で、評価し、次に繋げるように努力している。介護者側からだけの計画にならないように心掛けている。チーム全体でケア技術が向上するようにマニュアルも適宜追加している。現在はケアマネが中心となり対応しているが、今後、計画用紙を改善し介護担当者が中心となり作成し、よりきめ細かい支援計画に改善して行きたい。</p> <p>(外部評価) 介護計画は3ヶ月ごとに見直すようにされており、状態に変化があれば随時見直しておられる。職員は「利用者がお元気づちに、希望を叶えてあげたい」との思いから「意欲支援計画書」を作成されており、担当職員が「ご本人の意向」を聞き取り、どのように支援するか計画を立てておられる。</p>	<p>事業所では、現在、利用者の自立度も差があり、これからはさらに個別支援に取り組みたいと考えておられた。今後さらに利用者個々がその人らしい暮らしを続けられるよう、知り得た情報を十分に反映して支援していかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ムンテラ用紙を作成し、利用者ご家族に説明した事も記録に残すようにしている。行なった事を記入するのみでなく、見やすい様に排泄やバイタルサインを記入できるようにチェック表を作成し日々の変化がわかり易く、介護計画にそって実践されたか評価し、気づきも記録に残しておく等、今後も工夫を行っている。介護記録の研修にも参加予定している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者の中には、合併症の為、色々な診療科の受診が必要な利用者が居られる為、予定に合わせて受診介助をしたり、必要な場合はご家族と一緒に医師の指示を仰いだり、スムーズに検査等が受けられるような支援を行っている。必要時は関連病院に協力して貰い、理学療法士・管理栄養士等にアドバイスを受けながら対応している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 毎月ボランティアの先生に来て頂き、花道教室を開催している。利用者の楽しみになっており、上達もしている。民生委員、町内会長さんも訪問してくれている。フルーツのコンサート・琴の演奏会等のボランティアの方々の訪問も受け、充実している。希望される方は、信仰する宗教の牧師さんや僧侶の方にも訪問して頂いたりして本人・家族の心のケアを受けて頂く時間を持って頂いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>利用者は元々協力病院を受診していた方が多い。協力病院より毎週、往診して貰っている。協力病院に診療科が無い場合の受診は、職員が付き添う様にして円滑な治療が受けられる様に支援している。急な発熱等にも、協力病院からのサポートがある。毎月、診療情報を提供してもらい健康維持・病状安定に努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>体調の変化がある場合等には、ご家族が直接、医師から病状を聞くようになり、ご家族に不安があるような場合には管理者が同席されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>専任の看護師が配置され24時間体制で連絡が付くようにしている。利用者の些細な体調の変化を見逃さないように気を付けている。急な体調変化にも、協力病院の訪問看護ステーションが協力的で、スムーズな治療・処置が受けられる様支援してくれている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	(自己評価)	
			<p>入院によるダメージを少なくする為に、日頃の様子を細かく病院に申し送るようにしている。入院中も面会に行き病棟看護師の協力を得て状況の把握、退院前にはミーティングを行い、グループホームへの復帰がスムーズに行くよう支援している。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>医療に対する意志確認書を作成し、家族・利用者の意向に合わせての対応を行なうようにしている。日頃からも、家族と医師の連携を取れる様に体調や検査結果等を日頃から報告するようにしている。重度化するような疾患が判った場合は、希望に添い医師・訪問看護師など医療との連携を図り安心して看取りが行なえる環境を整えている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>入居時には、看取りの指針に基づき説明して、終末期の支援希望を聞き、状態変化時の意志確認や緊急連絡先等も含めて話し合い、希望を聞くようにされている。管理者は最期のことは「お元気な時に意思確認はしておいたほうが良い」「気持ちは変わるもの」と考え、利用者の希望に沿った支援ができるように定期的に利用者の意思確認をされている。運営推進会議時、母体病院の医師が、最期について、利用者の方がこれからどうなっていくか、どんな状態になっていくか、終末期を過ごす利用者のケースについて説明を下された。職員はたいへん勉強になったようだ。職員が不安を感じる夜勤帯は、看護師資格を有する管理者がいつでも駆け付けてくれるようになっており、職員は心強さを感じておられる。利用者の方が亡くなられた際には、管理者が事業所としてお別れとお礼の意味を込めてお手紙を書き、ご家族に渡すようにされている。入居されたからの様子や、ご本人がよく話してくださってこと、そして事業所からのお礼の言葉も添えておられる。利用者をご自分で先のことを考えて、亡くなった後に着る着物を縫われた方もおられた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 24時間体制で常勤看護師・協力病院との連携が取れる様にしている。緊急時の対応マニュアルを整備している。職員の殆どは、消防署での普通救命講習を受講している。急変時にスムーズに実践出来るように研修を重ねていきたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災・災害時に備えて、地域の方々をメンバーに加えた、緊急連絡網を整備した。運営推進会議に地域の消防団の方に参加して頂いた。防災計画を作成、防火管理者を配置している。年に2回の避難訓練を消防署の協力を得て、利用者・職員共に行なっている。今後は、地域の方の参加もお願いして行く予定。火災報知機・消火器の設置を行い、家具の配置を避難路の確保が出来やすいように工夫し、カーテン等は防災のものを使用している。現在、防災マップを作成し、防災グッズを揃えて行くようにしている。 (外部評価) 利用者も参加して夜間想定で避難訓練を実施されている。事業所は建物の2階部分にあり、消防署の方からは「いざという時にはベランダに避難するように」とアドバイスをいただいている。ご家族や地域の方もいざという時は手伝いに来てくださるようになってい。居室入り口には、避難方法を色分けしたりポンを貼っておられる。東日本大震災を機に、事業所ではミーティングや運営推進会議時に非常時の備えについて話し合われ、避難場所の確認をされたり、備蓄、薬やオムツ類を多めに管理すること、防災グッズの設置や事業所玄関に公衆電話の設置、近隣の方の連絡網等を用意された。又、避難経路は、利用者との散歩時に確認されている。	又、事業所では、地域住民として、いざという時、地域に役に立てることはないかと考えておられ「防災マップの作成をすすめたい」と話しておられた。いろいろな災害の場面を想定して、地域の方達とも相談したりともに訓練を重ねて、安全と安心に向けて取り組みをすすめていかれてほしい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日頃から、利用者との会話は年長者としての敬意を払い対応できるよう気を付けている。自己決定を尊重し、利用者の誇りを傷つけないよう接遇に配慮している。居室に入室する際も声掛けとノックを行うのはもちろん、身体的ケアを行う場合も同意を得るような声掛けを行い、プライバシーの確保が出来る空間を大切にすることを心掛けている。 (外部評価) 事業所では、利用者への呼び方も個々に合わせた呼び方をされている。調査訪問時、利用者には苗字で呼びかけるとお返事がなく、職員が「かあちゃん」と呼び直すと、目を開けて、お返事をされたというような様子がみられた。職員は利用者の居室から退室する際、「扉はどうしておきましょうか？」とたずね、利用者の希望に応じておられる様子もうかがえた。	利用者との信頼関係のもとでの対応であるだろうが、職員の言葉かけや対応について気になるような場面もみられる。食事中や、排泄介助の際等、配慮すべきところがないか、すべての職員で日々の利用者へのかかわりについて点検されてはどうか。この機会を活かして、職員同士で気になることや気付いたこと等を話し合い、ケアの質向上につなげていかれてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人ひとりの体調に合わせて、ゆったりした対応が行なえる様に努力している。利用者の気持ち、嗜好等を考慮した対応を職員間でも共有出来るように申し送ったり介護記録に残すように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 朝・夕食事時間もゆとりを持たせ、本人の体調に合せ食事時間を選べるようにして、朝寝坊もしても大丈夫というように職員も対応している。利用者のペースに少しでも合わせられるように、食事・入浴等の時間を利用者と相談しながら決定している。外出・買い物等も希望時に出来るように対応している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自己決定が出来る方は、自分の好みに合わせておしゃれできるように、取り易いところに衣類を整理したり、衣替えを支援したりしている。好みの洋服を購入出来るよう、外出支援している。お気に入りの洋服で、写真を撮影して差し上げている。利用者全員、朝衣類に夜は寝衣に着替えて頂き、生活のリズムを整えている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者に献立を相談し決めているが、管理栄養士に総合的に栄養バランスをチェックしてもらっている。旬の物や・行事に合せた食事に気をつけている。下ごしらえを手伝って下さる利用者も多くもやしの根切り・ごぼうの笹がき・餃子作りなどをお願いしている。自分で食べやすいような食器を使用するよう心掛けている。食事量の低下・糖尿病等の方は協力病院の管理栄養士に指導を受けたりもしている。	
			(外部評価) お正月にお餅を食べたり、ひな祭りに甘酒を飲む等、食べ物からも季節を感じられるような支援に工夫をされている。母体病院の栄養士が考えた献立をもとに食事作りをされているが、昼食は利用者の希望に応じてメニューを変更することもある。七夕の短冊に「エビフライが食べたい」と願いを書いた利用者がおられ、調査訪問時の昼食はエビフライが食卓に上っていた。前日が誕生日だった利用者は、ご本人のお好きな、いなりずしでお祝いしてもらったことを笑顔で話して下さった。変更した献立は、時々栄養士の方にチェックしてもらい、栄養面についてアドバイスをもらうようにされている。利用者の状態や食材によって、ミキサーにかけ、その後さらに裏ごしして滑らかにする等、個々が食べやすく配慮して、少しでも食事の量を増やせるように支援されている。調査訪問時、昼食を食べ始める際、職員も利用者もみんな手で合わせ「いただきます」とあいさつをしてから食べ始めておられ、食事の話題等しながら、ゆっくり食事を楽しんでおられた。食後は、ご自分の手の届くところをテーブル拭きされる方もおられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 高齢による嚥下困難がある利用者の食事の形態を工夫している。食事摂取量は毎回記載している。脱水予防の為に頻回に水分補給を行っている。湯上り等は、飲みたい飲み物を確認してから、お出ししている。栄養バランスは、医師や管理栄養士のアドバイスも受け易く栄養補強食品・食物繊維を必要な方には提供している。食事の形態も利用者に合わせて調節し、治療食にも対応している事で、病状の安定した利用者の方が多い。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアが出来るように支援している。入れ歯の清潔が保てるよう、毎晩入れ歯の消毒・洗浄をしている。利用者のペースが守られるような口腔ケア方法を確認し支援している。訪問歯科診療も受けて貰い適切な口腔ケアが行なっているかアドバイスを受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の排泄パターン、身体的能力を加味しながら、尿意の訴えない利用者も日中はトイレでの排泄介助を行なっている。排泄チェックリストを作成して排泄があった時間帯を把握し失禁を予防している。利用者の能力に応じてどのようなオムツや尿パッドを利用するか時間帯や体調によって調節している。	
			(外部評価) 利用者個々の状態に合わせて紙パンツやおむつを使用されているが、そのような状態にある利用者もトイレに座ることの支援をされている。おむつを使用している状態で入居された利用者もおられるが、定期的にトイレに座ることの支援を続け、尿意を行動で示すことができるようになられた方もおられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ケアにあたる職員全員が利用者全員の排泄状況を把握するようにしている。出来るだけ、自然に排便が出る為に、食物繊維を利用したり、食事に繊維の多いものを使ったり、運動や歩行を取り入れたり温電法や腹部マッサージを行なう等の工夫を行っているが、便秘に方むく方が多く、医師に相談し緩下剤の処方を受けているが、状態によって調整を行なうようにしている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者と相談し週間の入浴スケジュールを決めている。予定を決める事で、ご家族も入浴時を避けて訪問して下さるようになってきた。週3回から4回の入浴回数が多いが、余裕のある日は、お誘いして入浴して頂くようにしている。便失禁等で必要なときは随時入浴して頂ける様に工夫している。今の所、利用者からは不満の声は聞かれないが、必要時は、同性介助・夜間入浴等にも対応して行きたい。	
			(外部評価) 毎月利用者と入浴の予定を決めておられ、居室に予定表を貼っておられる。皮膚のトラブルや体調によって回数を増減することもある。ご自分の好みの洗顔やタオルを使用されており、「リンスは多め」「お湯は熱め」「入浴剤はみどり色がいい」等、利用者個々の希望や好み等に気を配りながら支援されている。現在、骨折されている方がおられ、体を拭いたり、ベッド上でシャンプー等されているが、事業所の浴室は一般的な浴槽になっており入浴が難しいため、病院の浴室を使わせていただけるようお願いをされており、近いうちに入りに行く予定になっていた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 高齢の為に時間のサイクルがずれていく利用者に対しても臨機応変に対応し徐々に修正して行けるよう支援している。利用者の一人ひとりの睡眠パターンを把握し必要な方には午睡をとって頂いたりしているが、基本的には日中は集中出来る事や散歩や楽しみにしておられる事を演出し生活のリズムが整うように支援している。利用者の中では殆どの方は安定剤等の薬剤に頼らずに安眠できている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>(自己評価) 協力病院ではワンパック包装に協力して貰い誤薬を防ぐ他、利用者が自分で内服しやすいよう工夫している。職員全員が服薬内容が把握出来るように、薬効・内服量・副作用等を記載した薬剤ファイルを作成している。新しい薬が処方された場合は必ず申し送るようにしている。誤薬が無い様に薬ケースに整理して保管し、何回もチェックして投与するように心掛けている。</p>	
48		<p>役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 月に1回ボランティアの先生にお花教室を開催して頂き、生け花を楽しんで頂いている。季節に合わせた行事を行い花見・夕涼み会・忘年会は家族の方も参加して頂いている。時代劇やドラマのDVDを借りに行きお好きな利用者同士で鑑賞する事が流行っている。</p>	
49	18	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 頻繁に声掛けを行い、体調の良い方は買い物や散歩にお誘いして外出支援を行っている。利用者の体力に合わせて、近所を散歩する等の外出の機会を作っている。希望に合わせて普通だった食堂に行ったり、夜、イルミネーションを見に行ったり柔軟な対応を心掛けている。今後の予定としても、最近会えていない兄弟に会いに行く計画を立てている。</p> <p>(外部評価) 「おやつや洋服を買いに行きたい」「ドライブに行きたい」「きれいなお花を見に行きたい」「気分転換したい」等、利用者からの希望が聞かれたら、その日にできるだけ出かけられるように支援されている。朝食にパンを希望される場合は、利用者と一緒に出かけ、ご本人がお好きなパンを選べるよう支援されている。奥道後温泉に入られたり、せせらぎ亭では、釣った魚を料理してもらい食べたりもされた。又、お花見には、ご家族も誘う等、一緒に楽しめるような機会を作っておられる。近隣の母体病院でボランティアの方が行う喫茶コーナーに利用者も出かけられて、コーヒーを飲みながらボランティアの方達とおしゃべりすることを楽しみにされている方もいる。そこには、お菓子等の販売コーナーがあり、利用者が作ったピーズのアクセサリを販売されている。時々、売れゆきを見に行き、商品を入れ替える等、楽しみにしていただいている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>(自己評価) 個人の能力に合わせてご家族の同意を得て、自己管理をされている方や、日頃はグループホームで管理し、買い物の際に手渡し、自分で払って貰うようにしたり、個々にあわせての対応を行っている。毎月、家族に使った内容を報告し確認して貰っている。</p>	
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>(自己評価) 毎年、職員が写真入りの年賀状を作成し差出人は利用者で出すようにしている。利用者の方にお手紙を書いて貰おうとしているが、億劫られるので、グループホームだよりを郵送する時に、近況を職員が報告したり、利用者の写真を同封したりする。お返事を下さるご家族も多いので、利用者が喜ばれる。電話に関しては、希望時はダイヤルを回して差し上げたり、家族から掛かってきたらゆっくり話せるよう、居室で電話の子機で話して貰う等の環境を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関・洗面所等に季節の花を飾ったりしている。玄関を入るとすぐにトイレがあるので、こまめに利用者が使用した後は汚れていないか匂いがこもっていないかチェックして気持ちよく使用できる様に工夫している。玄関には利用者の最近の写真を張り、ご家族にも最近の様子が判り易い様に工夫している。食事時のBGMも利用者の気分に合せて変更できるようCDの種類を多く揃えている。</p> <p>(外部評価) 2階にある事業所への階段の上がり口には「ようこそ なないろへ」と書かれたご家族手作りの看板が設置されており、階段の上がり口が分かりやすいようになっている。事業所の入り口には、ひまわりの花が飾られていて、玄関の目につく場所に、利用者の笑顔の写真を貼り出しておられる。ベランダで、シソやネギを育てておられたり、利用者が母の日にご家族からプレゼントされたカーネーションも大切に育てられていた。調査訪問時、食事時は、ご家族が作成してくださった、懐かしい曲のCDを流しておられた。昼食後は、ソファに座り時代劇を楽しんでおられる利用者もあった。華道のボランティアの先生が毎月来て下さり、利用者は自分で生けた花を居室に飾ったり、作品にネームプレートを付け玄関に飾る等されている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) グループホーム全体が狭いのでゆったりした空間が中々取れないので苦勞している。リビングのソファが自分の指定席だと思っておられる方が多く、時間帯ずらすを工夫し、くつろいで過して頂けるようにしている。ベランダに花を植えているので、利用者の方をお誘いして楽しんでもらっている。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入所時から利用者・本人と相談し、思い入れのある品は持って来て頂く様打ち合わせしている。利用者それぞれに、神棚・仏壇等を居室に置いて貰ったり、小物入れを職員と作り利用したりされている。家族の写真・自宅から見える風景の写真を引き伸ばして壁に飾ったり、100歳の表彰状・好きな歌手のポスターや故郷のお祭りの様子ノカレンダー等それぞれの思いを大切に支援を行っている。</p> <p>(外部評価) CDラジカセでお好きな歌手の曲を聴いたり、レンタルしてきたDVDを自宅でゆっくりと鑑賞する利用者もいる。ご家族が補聴器の使い方を書いてくださった紙を貼っておられたり、ご家族から届いた手紙やクリスマスカードを大切に貼られている方もみられた。化粧道具を置いておられたり、ご自宅から持って来られた日本人形を飾っておられる方もみられた。日めくりカレンダーを掛けておられたり、エアコンの噴出し口にカバーを付け、風が当たらないような工夫をされていた。お若い頃の写真のアルバムを持って来られている方は、時々、アルバムを眺めながら、その頃のことについてお話をしてくださる。現在は、ベッドを使っておられるが、転倒の恐れがある方には、畳を敷くことも検討されていた。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 身体レベルに合わせて居室の家具の位置を変更し、残存機能の維持を心掛けている。ソファの座面を高くし立ち上がりし易くしたり、介助方法も利用者の残存能力の合せて変更し自分の能力を維持出来るように工夫している。利用者の行動を観察し、安全な動作が行えるよう側で見守りを行うように気を付けている。</p>	